

## 春～秋に観察できる鳥

北海道最南端の松前町には、3月末・4月初旬になると、東南アジアや日本南部で越冬したツバメやウグイスなどが繁殖のために帰ってきます。不思議なことに、毎年、同じ頃にやってきて、同じ頃に越冬地に向かって旅立っています。



- モズ ●ニュウナイスズメ ●オオルリ ●クロツグミ ●キビタキ ●ルリビタキ ●イソヒヨドリ ●エゾムシクイ ●センダイムシクイ
- コサメビタキ ●カッコウ ●ツツドリ ●ホトトギス ●アオバト ●イカル ●コノハズク ●ヨタカ ●キセキレイ ●ハクセキレイ
- アマツバメなど

## 晩秋～春に観察できる鳥

道内や北海道より北で繁殖した鳥が、冬を越すためにやっています。中には、さらに南を目指し、初冬の津軽海峡を渡る小鳥たちもいます。木々の種や実を食べるなら問題ありませんが、ウソのように桜の芽を食べる鳥もあり、その数が多い年には、桜の名所「松前」では社会的な問題になります。



## 一年中、観察できる鳥



## 水辺の鳥



- カルガモ ●マガモ ●シノリガモ ●ウミウ ●ヒメウ ●オオセグロカモメ
- ウミネコ ●シロカモメ ●ヒドリガモ ●スズガモ ●ホオジロガモなど

## まれに観察できる鳥

山奥に生息するイメージがあるクマゲラやクマタカも、運がよければ海岸から見える山ぎわで観察できます。また、ヤツガシラ、シロハラホオジロ、キマユムシクイ、ムジセッカなどが、渡りの途中に立ち寄ることがあります。

- クマゲラ ●クマタカ ●アオバズク ●オオコノハズク
- ヤツガシラ ●ヤマシギ ●ヤマヒバリ ●カヤクグリなど

# 白神岬で出会える鳥たち

「白神岬」では、国内の野鳥約600種のうち300種以上が観察されています。



ほとんどの野鳥が1年をかけて周期的に「渡り」をしていることが明らかになってきました。

2016年春、前年の夏に白神岬周辺で放したコルリが、タイで捕獲されたという連絡が舞い込みました。また、道南の七飯町で放したツバメは、インドネシアで捕獲されています。いずれも5000Km以上の距離の移動です。このように、渡り鳥の調査をすすめている中で、ほとんどの野鳥が毎年、繁殖地と越冬地を行き来していることが明らかになってきました。

白神岬は、シベリアやサハリンと本州・九州・沖縄や朝鮮半島から東南アジアにかけて「渡り」をする鳥たちの重要な中継地になっています。特に、秋に南をめざす鳥たちが、天候などの理由で津軽海峡を渡ることができます。白神岬周辺で足止めされた時などは、驚くほどたくさんの鳥に会えることがあります。

渡り鳥は、山・平原・島・湖沼などを目印として有視界飛行するだけではなく、地球の磁気・太陽コンパス・日照時間・星座の位置などを利用して飛行すると考えられています。夜間に飛行する種類も少なくありません。また、10gもない小鳥が津軽海峡を行き来するのを目の当たりにすると、「渡り」のすごさと神秘さに魅了されます。どの種がどのような渡りの能力を持っているのかはまだ謎だらけなのです。

松前町 ▲天狗山

## 白神岬観測ポイント



### 白神岬展望広場



- 9月中旬から10月下旬、ハチクマやノスリを中心とした大規模な渡りを観察することができます。
- 白神岳周辺に発生する上昇気流を利用して空高く舞い上がった後、竜飛岬方向に滑り出すように渡っていく姿は、実に感動的です。
- また、冬季には、オオワシやオジロワシの渡りを観察することもできます。
- 白神岳周辺に発生する上昇気流を利用して空高く舞い上がった後、竜飛岬方向に滑り出すように渡っていく姿は、実に感動的です。
- また、冬季には、オオワシやオジロワシの渡りを観察することができます。
- ハチクマ ●ノスリ ●ハイタカ ●オオタカ
- ツミ ●ハヤブサ ●チゴハヤブサ
- オオワシ ●オジロワシ ●トビなど

10月、竜飛岬を目指し  
ヒヨドリの群れが白神岬を飛び立つ

## 「ものさし鳥」をおぼえよう！

私たちの身边にいる野鳥の大きさは、初めてみる野鳥を特定する目安になります。

### 【大きさの目安】



(全長/15cm)、(全長/24cm)、(全長/33cm)、(全長/56cm)

協力:日本野鳥の会道南檜山 道南渡り鳥調査研究会 写真提供:石井孝一氏・幸子氏